

令和7年度 北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス	【科目】 家庭総合(上)	単位数：2単位
教科書：家庭総合 自立・共生・創造(東京書籍)		
学習書： (有) ・ 無	入門書： 有 ・ (無)	補助教材： 有 ・ (無)
試験：実技0回 筆記2回	報告課題： 全 6 回	最低面接時間数 4 時間

〈この科目は、家庭総合を分割して履修するものです〉

1 学習の到達目標

- 「生涯を見通す」、「人生をつくる」、「子どもと共に育つ」、「超高齢社会を共に生きる」、「経済生活を営む」、「持続可能な生活を営む」、「食生活をつくる」を学び、SDGs等の家庭生活に必要な知識や技能を身につける。
- 暮らしと社会の課題を結び付けて考え、新しい価値観や行動を生み出し、持続可能な社会をつくる暮らしの担い手になろう。

2 科目の特色

- 生活の自立…私たちの生活は、人、物、サービスなどを介して社会と密接につながっている。家庭科は、生活に必要な衣食住の知識や技能を学ぶ。これらを身に付け、生活に生かすことで、長い人生を豊かで充実したものにする事ができる。
- 生活の創造…今のあなたは、将来の「なりたい自分」が見えているだろうか。家庭科の学習を通して社会と関わる中で、社会を支えるさまざまな職業や活動に出会おう。その先に、将来の「なりたい自分」があるかもしれない。
- 家族・社会との共生…私たちは、家族や周囲の人、地域や社会のために何ができるだろうか。家庭科では、高校生の私たちが現在や将来のために考えるべきことを各章で問いかけている。自分なりの答えを探し出してみよう。

3 評価の観点・方法(年間の評価)

①評価の観点(評価は次の3つの観点から行います)(※技能～実技を伴う科目)

知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

②評価方法

- 「知識・技能」：報告課題の評点平均をもとに評価します。
- 「思考・判断・表現」：中間試験・終末試験の評点平均をもとに評価します。
- 「主体的に学習に取り組む態度」：報告課題の提出状況をもとに評価します。

4 年間学習計画

報告課題・試験	単元名(指導内容)	提出期間
第1回	生涯を見通す、人生をつくる	5. 2～ 5.22
第2回	子どもと共に育つ	6. 18～ 6.27
第3回	超高齢社会を共に生きる	7. 23～ 7.31
第4回	経済生活を営む、持続可能な生活を営む	9. 19～ 9.28
第5回	食生活をつくる(1)	10. 31～11. 9
第6回	食生活をつくる(2)	12. 13～12.23
中間試験	出題範囲と要点、参考資料等は通教 YUHO 第2号参照	
終末試験	出題範囲と要点、参考資料等は通教 YUHO 第3号参照	

5 学習のすすめ方

- 教科書、学習書、解説をよく読み、学習にのぞみましょう。
- 面接に出席するときは、事前に報告課題(レポート)に取り組んでから出席すると理解が深まります。できるだけ目を通してから出席を心がけましょう。
- ちょっとした疑問など、報告課題の質問感想欄を利用し、どんどん質問しましょう。
- レポートは空欄を残してしまうと再提出の対象となります。面接などを活用して解決していくよう取り組みましょう。
- 誤字、脱字に気をつけ、自分の考えを書くところは具体的に記入しましょう。

令和7年度 北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス	【科 目】 家庭総合(下)	単位数：2単位
教科書：家庭総合 自立・共生・創造(東京書籍)		
学習書： (有) ・ 無	入門書： 有 ・ (無)	補助教材： 有 ・ (無)
試験：実技0回 筆記2回	報告課題：全6回	最低面接時間数 4 時間

〈この科目は、家庭総合を分割して履修するものです〉

1 学習の到達目標

- 「食生活をつくる」、「衣生活をつくる」、「住生活をつくる」、「共に生き、共に支える」、「これからの生活を創造する」を学び、SDG s等の家庭生活に必要な知識や技能を身につける。
- 暮らしと社会の課題を結び付けて考え、新しい価値観や行動を生み出し、持続可能な社会をつくる暮らしの担い手になる。

2 科目の特色

- 生活の自立…私たちの生活は、人、物、サービスなどを介して社会と密接につながっている。家庭科では、生活に必要な衣食住の知識や技能を学ぶ。これらを身につけ、生活に生かすことで、長い人生を豊かで充実したものにする事ができる。
- 生活の創造…今のあなたは、将来の「なりたい自分」が見えているだろうか。家庭科の学習を通して社会と関わる中で、社会を支えるさまざまな職業や活動に出会うだろう。その先に、将来の「なりたい自分」があるかもしれない。
- 家族・社会との共生…私たちは、家族や周囲の人、地域や社会のために何が出来るだろうか。家庭科では、高校生の私たちが現在や将来のために考えるべきことを各章で問いかけている。自分なりの答えを探し出してみよう。

3 評価の観点・方法(年間の評価)

①評価の観点(評価は次の3つの観点から行います) (※技能～実技を伴う科目)

知識・技能	人間の生涯にわたる発達と生活の営みを総合的に捉え、家族・家庭の意義、家族・家庭と社会との関わりについて理解を深め、生活を主体的に営むために必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境などについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活を創造し、実践しようとしている。

②評価方法

- 「知識・技能」 : 報告課題の評点平均をもとに評価します。
- 「思考・判断・表現」 : 中間試験・終末試験の評点平均をもとに評価します。
- 「主体的に学習に取り組む態度」 : 報告課題の提出状況をもとに評価します。

4 年間学習計画

報告課題・試験	単元名(指導内容)	提出期間
第1回	食生活をつくる(3)	5. 1～ 5. 21
第2回	食生活をつくる(4)	6. 16～ 6. 25
第3回	衣生活をつくる(1)	7. 20～ 7. 28
第4回	衣生活をつくる(2)	9. 17～ 9. 26
第5回	住生活をつくる	10. 29～11. 7
第6回	共に生き、共に支える、生活を設計する	12. 12～12. 22
中間試験	出題範囲と要点、参考資料は通教YUHO第2号参照	
終末試験	出題範囲と要点、参考資料は通教YUHO第3号参照	

5 学習の進め方

- 教科書、学習書、解説をよく読み、学習にのぞみましょう。
- 面接に出席するときは、事前に報告課題(レポート)に取り組んでから出席すると理解が深まります。できるだけ目を通してから出席を心がけましょう。
- ちょっとした疑問など、報告課題の質問感想欄を利用し、どんどん質問しましょう。
- レポートは空欄を残してしまうと再提出の対象となります。面接などを活用して解決していくよう取り組みましょう。
- 誤字、脱字に気をつけ、自分の考えを書くところは具体的に記入しましょう。

令和7年度 北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス	【科 目】 保育基礎	単位数：2単位
教科書： 保育基礎（実教出版）		
学習書： 有 ・ 無	入門書： 有 ・ 無	補助教材： 有 ・ 無
試験：実技0回 筆記2回	報告課題： 全 6 回	最低面接時間数 4 時間

1 学習の到達目標

保育の意義や方法、子どもの発達と生活の特徴、子どもの福祉や文化について理解し、関連する技術を身につけ、保育や子育て支援に寄与する資質・能力を身につける。

2 科目の特色

子どもの発達過程や生活の特徴を保育に関連付けて学ぶことにより、子どもの姿全体を捉え、子ども一人ひとりの発達に適した保育環境を整えることの重要性について思考を深めます。

（報告課題には作成作業を伴う実技課題の提出を求める回があります。）

3 評価の観点・方法（年間の評価）

① 評価の観点

知識・技能	保育の意義や方法、子どもの発達や生活の特徴、子どもの福祉と文化などについて理解するとともに、関連する技術を身につけている。
思考・判断・表現	子どもの発達や保育にかかわる現状について理解を深めた上で課題を発見し、その解決をめざして思考を深め、適切に判断する力を身につけている。
主体的に学習に取り組む態度	子どもの発達や保育への関心を持ち、意欲的に学習に取り組み、子どもの健やかな発達や保育に寄与していこうとする実践的な態度を身につけている。

② 評価方法

「知識・技能」：報告課題の評点平均をもとに評価します。

「思考・判断・表現」：中間試験・終末試験の評点平均をもとに評価します。

「主体的に学習に取り組む態度」：報告課題の提出状況をもとに評価します。

4 年間学習計画

報告課題・試験	単 元 名（指導内容）	提出期間
第1回	子どもの保育、子どもの発達の特徴、子どものからだの発達	5.1～ 5.21
第2回	子どものからだの発達（続き）、子どもの心の発達	6.16～ 6.25
第3回	月齢・年齢別の発育・発達、子どもの文化	7.20～ 7.28
第4回	子どもの生活と養護	9.17～ 9.26
第5回	生活習慣の形成、健康管理と事故防止	10.29～11.7
第6回	子どもの福祉	12.12～12.22
中間試験	出題範囲と要点、参考資料は通教 YUHO 第2号参照	
終末試験	出題範囲と要点、参考資料は通教 YUHO 第3号参照	

5 学習のすすめかた

○教科書、解説をよく読み学習にのぞみましょう。（この科目には学習書はありません。）

○面接に出席するときは、事前に報告課題（レポート）に取り組んでから出席すると理解が深まります。できるだけ目を通し、予習を行ってから出席しましょう。

○ちょっとした疑問など、報告課題の質問感想欄を利用し、どんどん質問しましょう。

○レポートは空欄を残してしまうと再提出の対象となります。面接など活用し、解決していくよう取り組みましょう。

○教科書のQRコードを参照し、実際の保育や子どもの様子について理解を深めてみましょう。

○教科書に漢字で記載の語句は漢字で解答し、誤字、脱字に気をつけ、自分の考えを書くところは具体的に記入しましょう。

令和7年度 北海道有朋高等学校 通信制課程 シラバス	【科目】連携 家庭基礎	単位数：2単位
教科書：教科書：家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）		
学習書： 有 ・ (無)	入門書： 有 ・ (無)	補助教材： 有 ・ (無)
試験：実技0回 筆記2回	報告課題： 全 6回	最低面接時間数 4時間

1 学習の到達目標

生活の営みに係る見方・考え方を働かせ、実践的・体験的な学習活動を通して、様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、男女が協力して主体的に家庭や地域の生活を創造する資質・能力を身に付ける。

2 科目の特色

- 人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などについて、生活を主体的に営むために必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。
- 家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなど、生涯を見通して課題を解決する力を養う。
- 様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図ろうとする実践的な態度を養う。

3 評価の観点・方法（年間の評価）

①評価の観点（評価は次の3つの観点から行います）

知識・技能	生活を主体的に営むために必要な人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活・環境などの基礎的なことについて理解しているとともに、それらに係る技能を身に付けている。
思考・判断・表現	生涯を見通して、家庭や地域及び社会における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。
主体的に学習に取り組む態度	様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

②評価方法

- 「知識・技能」：報告課題の評点平均をもとに評価します。
- 「思考・判断・表現」：中間試験・終末試験の評点平均をもとに評価します。
- 「主体的に学習に取り組む態度」：報告課題の提出状況をもとに評価します。

4 年間学習計画

報告課題・試験	単元名（指導内容）	提出期間
第1回	生涯を見通す、人生をつくる、超高齢社会を生きる	4.27～5.16
第2回	子どもと共に育つ	6.11～6.20
第3回	食生活をつくる	7.11～7.20
第4回	衣生活をつくる	9.3～9.11
第5回	経済生活を営む、持続可能な生活を営む	10.31～11.9
第6回	共に生き、共に支える、住生活をつくる、これからの生活を創造する	12.9～12.18
中間試験	出題範囲と要点、参考資料は通教YUHO第2号参照	
終末試験	出題範囲と要点、参考資料は通教YUHO第3号参照	

5 学習のすすめかた

- 教科書、学習書、解説をよく読み、学習にのぞみましょう。
- 面接に出席するときは、事前に報告課題（レポート）に取り組んでから出席すると理解が深まります。できるだけ目を通してから出席を心がけましょう。
- ちょっとした疑問など、報告課題の質問感想欄を利用し、どんどん質問しましょう。
- レポートは空欄を残してしまうと再提出の対象となります。面接などを活用して解決していくよう取り組みましょう。
- 誤字、脱字に気をつけ、自分の考えを書くところは具体的に記入しましょう。